

## OECD 東京センター・インターンシップ体験記 OECD Tokyo Centre Internship Report

インターン期間：2020年1月～3月

吉田梨紗（慶應義塾大学法学部4年）

### OECD 東京センターのインターンに応募したきっかけ

国際機関の仕事を学生のうちに体験してみたいという漠然とした考えがありました。留学から帰国後、卒業までの時間を有効活用したいという思いから学部生でもインターンとして受け入れてくれる国際機関を探していたところ、OECD 東京センターの募集を見つけたので応募を決めました。

### OECD 東京センターのインターンの仕事

OECD 東京センターは、アジア・太平洋地域で OECD に対する理解を促進するために広報活動を行っています。

インターンとして関わることができる仕事は主に、①日本国内の主要ニュースや OECD 関連のニュースのパリ本部への報告、②パリ本部が報告書等を発表する際のプレスリリースや会見の準備、③発表された報告書等の日本国内でのインパクトのモニタリング、④事務総長のミッションに伴う現地メディアレビューの作成、⑤OECD 東京センターが開催するイベントの準備・実施、⑥ソーシャルメディア運用のサポートの6つに分けられます。

インターン期間中に特に印象に残ったのは、1月末に“Future of Work (仕事の未来)”キャンペーンの一環として京都の同志社国際高等学校で行ったワークショップへの随行です。普段の報告書発表に伴うプレスリリースや記者会見等ではメディアの方に対しての広報活動を行うことが多いですが、OECD の活動内容を知らない高校生たちを対象にワークショップを行うことができたのは新鮮で、貴重な経験になりました。World Café というワークショップの形式をベースに、OECD の立ち上げたキャンペーンへの理解を通じて将来の仕事に対する彼らの率直な意見や考えを間近で聞くことができ、私自身も多くの学びを得ることができました。

また、「幸福度白書 2020」の報告書発表に併せて Twitter キャンペーンの企画・実施も担当しました。OECD 独自の指数を用いて様々な国や地域の幸福度を計測し、人々のより良い暮らしに必要なものを分析する活動をより多くの方に知ってもらうため、「#しあわせを測ろう📊」というキャンペーン用のハッシュタグを作成しました。過去の SNS のデータを可視化して注目を集めやすい時間帯を考えたり、メンターの職員の方に毎日レビューをいただくことで内容を改善しながらキャンペーンを行った結果、良いインパクトを得ることができました。

インターン期間の途中からは新型コロナウイルスの影響で在宅ワークとなりましたが、職員の方々のサポートもあり充実した仕事を続けることができました。世界中から注目の集まる報告書の発表時には、アンヘル・グリア事務総長が日本や他のアジア地域の国でオンライン出演した番組のモニタリングや、オンラインでの記者会見への対応等、通常時ではできなかった経験をさせていただきました。

### 最後に

OECD 東京センターでのインターンは、国際機関の一員として働くという性質上から責任も伴いますが、村上由美子所長をはじめとした職員の方々が積極的に新たなアイデアを提案しやすい環境を提供してくださっているため、非常にやりがいを感じられる仕事です。学生のうちから国際機関での仕事を体験してみたいという方はぜひチャレンジしてみてください！

